

ぼく自身のノオト



生きるとは。愛するとは。

500万部突破の世界的名著、
待望の復刊。続々重版！

推薦します

ぼくたちは、傷ついたり、転んだりしながら、かけがえない「自分」という存在に気づく。心の声を聴く一生の旅、果てしない対話が、この一冊からはじまる。

——**鎌田裕樹** (恵文社 一乗寺店)

名状しがたいモヤモヤとした思い。あの頃の未消化の感情を自分の言葉にできて初めて、人は自身の輪郭を知るのかもしれない。

——**佐藤美和** (長崎次郎書店)

「青い」ことを忘れてはならない。世界と孤独に対峙する、かぼそくて純なところは、いまでもあなたに眠っている。

——**辻山良雄** (本屋 Title)

この表紙に目がとまったら、ぜひ、一ページ目をめくっててください。そこできつと、自分だけにしかわからない素顔の自分に会えるはずです。

——**三砂慶明** (梅田 蔦屋書店)

13歳から20歳にかけて、この本を何度も読み返し、友だちや好きな人のみんなに貸した。どのページのどの言葉も覚えている。久しぶりに手にとって、これはもしかして、いま必要とされている言葉ではないかと考える。北山修の名訳だ。

——**山崎まどか** (コラムニスト)

装画 **中田いくみ** (『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』)

創元社

